かわさき
パラムーブメント

推進ビジョン｜第1期（2016−2017）

2016 ▶ 2018 ▶ 2020

多様性は可能性
混ざり合う強さとやさしさは
より良い社会への変革に向かう

みんなで動かそう
かわさきパラムーブメント

2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されるまで、あと4年となりました。56年ぶりに東京で開催される夏のオリンピック・パラリンピックに、懐かしい想い出が蘇る人、繰り広げられるドラマに期待を寄せる人、今はまだ関心の無い人、抱く思いはさまざまだと思います。私自身は夏のオリンピック・パラリンピックを目の当たりにするのは初めての経験で、今から東京2020大会を心待ちにしている一人ですが、それと同時に、このまちの未来に向けて、次の世代に対して、この東京2020大会はどのような意味を持つのだろうということを考えずにはいられません。

川崎市は開催都市から最も近い都市の一つですから、直接競技会場に足を運んで競技を観戦できる市民は多いでしょう。また、空港に隣接するなど立地の良さから、多くの人が川崎を訪れることで経済波及効果も得られるかもしれません。しかし、東京大会を一過性のイベントではなく、未来につながるマイルストーン（里程標）として捉えたとき、それ以上の価値と、あと4年の間に私たちがなすべきことが見えてくるように思います。

この「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」は2020年に向けて、川崎市が進む方向性や、まちの未来像を取りまとめたものです。このビジョンを多くの市民の皆さんと共有しながら、柔軟にそして着実に取組を進めてまいります。

このビジョンの取りまとめにあたりまして、「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」の皆さまに御尽力いただいたことにも心から感謝申し上げます。

川崎市長　福田紀彦

Contents

目次

ごあいさつ　1

Hint & Data
数字で考える
「かわさきパラムーブメント」　2

Topics
英国オリンピック代表チーム
「TEAM GB」がやってくる　4

パラリンピック競技について　5

「かわさきパラムーブメント」
について　6

01　ひとづくり　8

02　スポーツ振興 健康づくり　10

03　まちづくり　14

04　都市の魅力向上　16

05　先進的な
課題解決モデルの発信　18

推進フォーラムについて　20

リーディングプロジェクト　22

拡がるムーブメント　24

Hint & Data

数字で考える「かわさきパラムーブメント」

運動習慣

週１回以上スポーツをする人の割合

- 川崎市民 **37.7%** (2010年)
- 全国平均 **47.5%** (2012年)
- 障害のある人（全国） **18.2%** (2013年)

スポーツ観戦

- 応援している地元チーム・選手がいる川崎市民 **21.4%** (2010年)
- 地元のチームの試合を観戦したい川崎市民 **76.2%** (2010年)
- 川崎フロンターレホームゲーム 年間来場者 **36** 万人 (2014年)

障害者数

本市の障害児・者数は、この10年間で約1.5倍に

- 身体障害 **35,685** 人
- 知的 **8,207** 人
- 精神 **8,843** 人
- 合計 **52,735** 人

(2014年4月)

外国人市民

外国人市民人口は

約 **20** 年前と比較して **1.5** 倍に増加。

120 を超える多様な国・地域から、

30,000 人を超える外国人市民が暮らす。

外国人市民に占める外国生まれは

20 年前の約 **70**% から **83**% に増加、

また、定住的な資格を有する人の割合は

約 **50**% から **66**% に増えている。

交通

主要駅から川崎駅までのアクセス

- 羽田空港 ▶▶▶ **15** 分（京急線）
- 東京駅 ▶▶▶ **18** 分（JR）
- 品川駅 ▶▶▶ **9** 分（JR）
- 横浜駅 ▶▶▶ **8** 分（JR）

ユニバーサルデザイン（UD）タクシーの

市内導入台数 **36** 台（2.5%）
（2016年）

市バスへのノンステップバス

市内導入台数 **319** 台（93.8%）
（2016年）

観光

主要観光施設への観光客数は

この **10** 年間で約 **200** 万人増加。

2014 年には **1,500** 万人を突破。

- 藤子・F・不二雄ミュージアム
  46 万人（2015年来場者数）
- かわさき市民祭り（2015年来場者数）
  55.6 万人（3日間）
- カワサキハロウィンパレード（2015年観客動員数）
  12 万人（1日間）
- 市内主要ホテル客室数
  4,644 室（2014年）

宿泊客総数 **102** 万人

外国人宿泊客 **8.8** 万人（9%）（2014年）

先端産業

約 **400** の研究開発機関が立地し、

学術・開発研究機関の従業者割合が政令指定都市でトップ
（2012年）

Topics

英国オリンピック代表チーム

“TEAM GB”がやってくる

一流のアスリートに間近に接し、触れ合う。

2016年2月8日 英国オリンピック委員会と事前キャンプに向けた覚書を締結

英国オリンピック委員会とJOC、川崎市は、横浜市、慶應義塾大学とともに、2020年の東京オリンピック競技大会に向けて、等々力陸上競技場を英国オリンピック代表チーム（TEAM GB）の事前キャンプ地とする覚書を締結しました。
等々力陸上競技場は主に陸上チームのキャンプ地となる見通しですが、実施時期など具体的な内容については、今後さらに協議を進めます。事前キャンプの受入れが、川崎の子どもたちにとって一流のアスリート、そして異なる文化に間近に接し、触れ合う機会となるよう、スポーツのほか教育などさまざまな分野での交流事業を行います。

ナショナルトレーニングセンター（東京都北区）で行われた締結式

**ここ等々力陸上競技場に
イギリス陸上チームが集結する**

英国オリンピック委員会委員長
セバスチャン・コー

川崎市民へのメッセージ

覚書締結式ではキャンプ地となる川崎市、横浜市に対して、英国オリンピック委員会セバスチャン・コー委員長から感謝の言葉とともに、次のようなメッセージを贈られました。「2つの街は、私たちの選手がオリンピック出場の準備をするための、素晴らしい施設や設備を有しています。また、この街の市民はスポーツの価値を深く理解していて、スポーツの力そのものを感じさせてくれる街だと思います。」

1980年のモスクワオリンピック、1984年のロサンゼルスオリンピック1500m金メダリスト。陸上競技での世界記録更新は12回を数える伝説の陸上競技選手。

パラリンピック競技について

川崎市はパラリンピックにより重点を置き、「かわさきパラムーブメント」を掲げていますが、オリンピック競技に比べてパラリンピック競技はあまり良く知られていません。ここではパラリンピック夏季大会の正式競技をご紹介します。

夏季大会の正式競技（東京 2020 大会）

- ○アーチェリー
- ○陸上競技
- ○バトミントン
- ○ボッチャ
- ○カヌー
- ○自転車競技
- ○馬術
- ○視覚障害者5人制サッカー
- ○ゴールボール
- ○柔道
- ○パワーリフティング
- ○ボート
- ○射撃
- ○シッティングバレーボール
- ○水泳
- ○卓球
- ○テコンドー
- ○トライアスロン
- ○車椅子バスケットボール
- ○車いすフェンシング
- ○ウィルチェアーラグビー
- ○車いすテニス

陸上競技

ウィルチェアーラグビー

ボッチャ

ブラインドサッカー
© 日本ブラインドサッカー協会

車椅子
バスケットボール

**ボッチャやゴールボールなど
パラリンピック独自の競技のほか、
競技の特性によって進化した用具など、
パラリンピックならではの見どころがたくさんあります。
ぜひパラ競技の大会にも足を運んでみてください。**

日本パラリンピック委員会
事務局長　中森 邦男 さん

「かわさきパラムーブメント」について

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、
川崎市は「かわさきパラムーブメント」を
メインコンセプトに掲げています。
「かわさきパラムーブメント」の考え方はどのように生まれ、
何を目指しているのでしょうか？

将来の課題を先取りする

今、日本は少子高齢化、人口減少社会へと向かっていますが、この問題は人口が増え続ける川崎市も例外ではありません。将来人口推計によると、東京2020大会が開催される2020年、本市の高齢化率は21%を超え、2030年の152.2万人をピークにその後は減少へと転じていく見込みです。高齢化の進行に伴い、心身に障害を持つ人や介護が必要な人が増えることが想定されますが、持続可能なまちづくりを進めるためには、人口減少社会を見据え、一人ひとりが尊重され、能力を発揮することができる環境づくりを進めていくことがとても重要になります。

パラリンピックに重点を置くということ

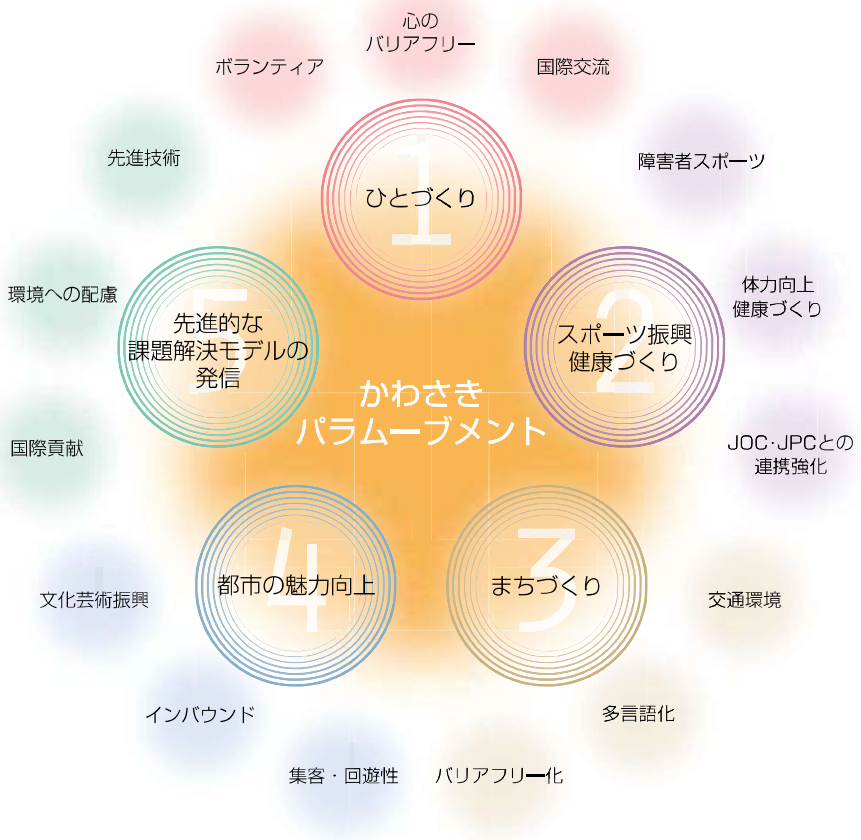
パラリンピックは大会を追うごとに参加国とその選手の数が増えていると言われています。国もパラリンピックを重視するという姿勢を打ち出しています。本市においては、このパラリンピックを未来につながるダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（さまざまな人が自分らしく社会の中に混ざり合えること）の象徴と捉え、パラリンピックに重点を置くという方針を打ち出しました。

「かわさきパラムーブメント」から市制100周年へ

そこから生まれたのが「かわさきパラムーブメント」の理念です。パラリンピックを応援することにとどまらず、障害のある人が生き生きと暮らす上での障壁となっている、私たちの意識や社会環境のバリアを取り除くことや新しい技術でこれらの課題に立ち向かうことを「ムーブメント」としてさまざまな分野で展開していくことを目指しています。
「かわさきパラムーブメント」が市内の隅々に行き渡ることで、東京2020大会終了後、さらには2024年の川崎市制100周年につながる実践的な取組が進むと考えられます。

かわさきパラムーブメント5つの方向性

世界最大のスポーツと文化の祭典であるオリンピック・パラリンピックの特長や本市の強みを踏まえ、政策領域を幅広く捉える5つの方向性を設定し、これまでの取組の深化と加速度的な推進を目指します。



※ムーブメント：運動。オリンピックの考え方を世界の人々によく知ってもらい、
大きく広げていく運動を「オリンピック・ムーブメント」という

取組期間 ～3つのフェーズ～

かわさきパラムーブメント推進ビジョンは、2016年度から東京2020大会 終了後の2021年度までの6年間を取組期間としています。この計画期間は、大会終了後に取組の成果を検証し、2024年の市制100周年やその後のまちづくりにつながるレガシー（遺産）につなげていくことを意図したものです。
また、東京2020大会に向けた機運の高まりや、大会組織委員会等の動向を踏まえ、各分野の取組を段階的に拡充・進化させていくことや、新たな総合計画との整合性を図るため、6年間に3つのフェーズを設定し、推進ビジョンの見直しを行います。
本推進ビジョンでは主に第1期推進期間の取組を中心に取りまとめをいたしました。

2016年度
2017年度
第1期推進期間

フェーズⅠ
「開催につなげる取組期間」
「かわさきパラムーブメント」を中心とした、
東京 2020 大会に向けた本市のビジョンを共有化し、
取組の基礎となるネットワークやしくみづくりを
重点的に進めます。

2018年度
2019年度
第2期推進期間

フェーズⅡ
「大会を成功させる取組期間」
大会組織委員会等との連携を深め、
大会運営に積極的に協力するための取組を進めるとともに、
「かわさきパラムーブメント」を実践する取組を展開します。

2020年度
2021年度
～
第3期推進期間

フェーズⅢ
「未来につなげる取組期間」
東京 2020 大会を盛り上げるための
さまざまな取組を実施するとともに、
各期間の成果を振り返りながら
持続的な取組へと発展させていきます。

※フェーズ：変化する過程の一区切り。段階

かわさきパラムーブメント

ひとづくり

01

オリンピック・パラリンピックは、選手や観客など世界中から多くの人が集まると同時に数多くのボランティアが大会の運営や大会期間中のおもてなしを支えます。障害の有無や国籍の違いを越えて共に東京2020大会の感動を分かち合う、その経験や活動のモデルは、市民一人ひとりが輝けるまちづくりに向けた大きな財産となります。東京2020大会に向けたボランティア人材の育成や心のバリアフリー、国際交流を推進することで、心がつながり通い合う、「ひとづくり」のための取組を進めます。

[大会後のレガシー]

- **ボランティア文化**（人材・しくみ・意識）
- **心のバリアフリー**
- **多文化共生の社会**
- **国際社会に貢献できる人材**
- **障害のある人に配慮した就労環境**

Movement 2016

1 ボランティア活動の推進

大会会場から最も近い都市の一つとして、多くのボランティアが参加することで大会運営に積極的に協力できるよう、市内イベントの活用や関係団体との連携によりボランティアの実践的な育成や、ボランティアへの関心を高める取組を進めます。

具体的な取組

■ スポーツイベント等におけるボランティアの募集

多摩川ランフェスタ等の市主催の定期的なスポーツイベントにおいてボランティアを募集し、東京2020大会に向けたボランティアの発掘・育成の機会とします。

■ 関係団体との連携によるボランティア講座の開催

かわさき市民活動センター、川崎市社会福祉協議会、川崎市国際交流協会等との連携により、さまざまな分野のボランティア講座を開催します。

■ 事前キャンプ受け入れに向けたボランティアの育成

市内中学校、高校、大学等との連携により、英国陸上チームの事前キャンプ受け入れに向けたボランティアスタッフの育成や体制づくりについて検討を進めます。

2017

2 心のバリアフリーの推進

一人ひとりが違いを認め合い活かし合う体験を身近で楽しいイベントを通じて積み重ね、心のバリアフリーを進めます。また、それらの取組をモデルに、障害のある人の社会参加や就労機会の拡充に取り組みます。

具体的な取組

■ 市内イベントにおける障害のある人の就労体験の実施

ピープルデザイン研究所との連携により、川崎フロンターレホームゲームなど市内スポーツイベントや映画、音楽イベントなどで、福祉事業所に通う障害のある人の就労体験を実施します。

■ 障害の有無に関わらず参加できるスポーツイベントの実施

多摩川ランフェスタ等、障害の有無に関わらず参加できるスポーツイベントや、同時開催による障害者スポーツ体験を実施します。

■ 障害者雇用・就労促進かわさきプロジェクトの実施

障害があっても働く意欲を実現できる、自立と共生の社会をめざし、企業・当事者・社会全体にアプローチした事業を実施します。勤務時間や就労形態の工夫など、障害のある人それぞれの状況に応じた働き方が可能となるよう実践的な取組を進めます。

3 国際交流の推進

オリンピックやパラリンピックの意義について理解を促進するとともに、事前キャンプの受け入れ等を通じて国際交流の機会を創出することにより、多様な文化を尊重する意識啓発や国際社会で活躍することができる人材育成に取り組みます。

具体的な取組

■ 姉妹友好都市との交流の推進

2016年に友好都市提携20周年を迎える韓国富川市と、サッカー交流を行います。また、英国シェフィールド市について、2020年の友好都市提携30周年に向けた交流事業の検討を進めます。

■ 英国との交流事業の実施と「ホストタウン構想」の推進

本市で事前キャンプを行う英国オリンピック委員会への協力を契機として英国とスポーツ、文化、教育、産業など幅広い分野での交流事業を実施します。また、これらの取組については国が進める「ホストタウン構想」を活用します。

■ 小学校における英語教育の推進

グローバル社会の中で、積極的に外国人と英語でコミュニケーションする児童の育成に向け、小学校における英語教育のさらなる推進に取り組みます。

CHECK!

川崎国際多摩川マラソンで活躍するボランティア

毎年秋に開催される川崎国際多摩川マラソンでは200名にも上るボランティアが大会の運営を支えています。2015年度からは、それらのスタッフに混ざりながら、障害のある方が給水ポイントにて約6,000人のランナーの走りを支える側として就労体験を行っています。東京2020大会までに、大会運営に携わる障害者の割合が、国民のうちの障害者の割合である6%と同じ割合になるよう、「さまざまな人が混ざり合ってスポーツをする・観る・支える」取組を推進します。

かわさきパラムーブメント

スポーツ振興 健康づくり

02

1

東京2020大会を契機として、スポーツや健康づくりへの関心を高め、「する・見る・支える」の視点からスポーツの推進を図ります。誰もが健康的で生き生きと暮らすことのできるまちづくりに向けて、スポーツや運動に親しめる環境づくりを進めるとともに、競技スポーツの振興に取り組むことにより、オリンピックやパラリンピックをはじめとする世界の舞台で活躍する川崎育ちのアスリートを育成するための取組を進めます。

［大会後のレガシー］

誰もがスポーツに親しめる環境

健康づくりや生きがいにつながるスポーツや運動の習慣

アスリートを発掘・育成・支援する環境

Movement 2016

1 障害者スポーツの推進

障害のあるなしに関わらず、誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、障害者スポーツの拠点の充実や障害者スポーツの普及促進を図ります。また、パラアスリートの支援や競技スポーツとしてのパラスポーツの魅力を伝える取組を進め、スポーツを通じたインクルーシブなまちづくりを進めます。

■ 障害者スポーツの推進組織の強化

2015年10月に創設した川崎市障害者スポーツ協会の活動として、障害者スポーツに関する情報発信や団体間のネットワークづくりのほか、障害者スポーツを体験できるイベントなど、障害者スポーツの普及に向けた取組を進めます。

■ 等々力陸上競技場プロジェクトの展開

等々力陸上競技場をパラアスリートや地域障害者スポーツ団体の練習場所として優先利用日を設定し、障害者スポーツの拠点としての活用を図ります。

■ 障害のある人も参加できるスポーツ広場の定期開催

障害のある人の運動機会拡充に向けて、富士通スタジアム川崎等を会場に、スポーツ広場を定期的に開催します。

2017

具体的な取組

■ 障害者スポーツの環境づくりに向けた民間企業等との連携の推進

企業や学校、民間スポーツクラブ等との連携による練習場所の提供など、障害者スポーツの環境づくりに向けた民間企業等との連携を推進します。

■ 小中学校等における障害者スポーツ体験講座の実施

パラアスリートを講師に迎え、パラスポーツの魅力を体感する巡回講座を小中学校等で開催します。

■ 障害者スポーツ普及促進事業（かわさきインクルージョンモデル）の実施

ボランティア人材の育成や情報発信など、障害者スポーツ普及のための仕組みについてのモデル事業を通じた実践研究を行います。（スポーツ庁委託事業）

■ 大規模スポーツ大会を通じたパラリンピック競技の普及促進

国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上」などにおいて、競技種目の中にパラアスリートのエントリーを行い、同じステージで競い合うことや、パラ競技種目を実施することで、パラリンピック競技への関心を高めます。

■ 障害者スポーツを地域で支える指導者や支援者の育成

初級障害者スポーツ指導員養成講習会を毎年11月に実施するとともに、障害者スポーツ普及促進事業（かわさきインクルージョンモデル）において、（仮称）障害者サポーター認定制度の実践研究を行います。

■ 全国規模の障害者スポーツ大会の誘致・開催

全日本アンプティサッカー選手権大会、全日本デフバレー選手権大会など、全国規模の障害者スポーツ大会を誘致・開催し、障害者スポーツを観戦できる機会の充実を図ります。

※アンプティサッカー：主に上肢・下肢の切断障害を持った選手が杖を使用してプレーするサッカー
※デフバレー：聴覚障害者によるバレーボール

■ 各区スポーツセンターにおける障害者スポーツの取組の推進

障害のある人が身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりを進めていくため、各区スポーツセンターにおいて障害者スポーツ普及に向けた取組を推進します。

スポーツ振興
健康づくり

02

2

2 スポーツによる体力向上や健康づくり

市民の生活を元気で生き生きとしたものにするために、スポーツや運動の機会の充実に向けた取組を進めます。
また、東京2020大会をはじめとした国際大会で活躍できる次世代アスリートの育成に向けた取組や、スポーツの拠点となる施設の充実を図ります。

具体的な取組

■ 市民参加のスポーツイベントの開催

多摩川ランフェスタや各区における地域の特色を活かしたスポーツイベントなど、市民が気軽に参加することができるスポーツイベントを開催します。また、それらの活動を推進するため、地域人材であるスポーツ推進委員等と連携・協力していきます。

■ 全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手派遣

高齢者の健康維持、社会参加、生きがいづくりのため、全国健康福祉祭（ねんりんピック）に選手を派遣します。

■ かわさきスポーツパートナーによるスポーツ教室の実施

本市を拠点に活動するプロチーム・実業団チームに所属する選手やコーチを講師として招き、小中学生を対象としたスポーツ教室を実施します。

■ ジュニアアスリートの育成・強化

川崎市スポーツ協会を通じて、加盟する競技団体について、選手の育成、強化、及び指導者育成に取り組みます。

■ スポーツ・文化総合センターのオープンを契機としたスポーツ推進

2017年にオープン予定のスポーツ・文化総合センターにおいて、オープン記念のスポーツイベントを開催するなど、施設の開館を契機としたスポーツ推進を図ります。

■ 等々力陸上競技場の施設の充実

等々力陸上競技場及び補助競技場について、国際大会や事前キャンプの円滑な開催・運営に向けた施設の充実について取組を進めます。

3 JOC や JPC との連携の推進

JOCパートナー都市協定に基づく取組の推進など、オリンピックやパラリンピックに向けた日本オリンピック委員会（JOC）や日本パラリンピック委員会（JPC）との連携を深め、大会運営やアスリート支援に向けた積極的な協力体制を築きます。

具体的な取組

■ JOC 加盟団体への施設提供

等々力陸上競技場をはじめとする市内施設を国内競技団体の練習会場として提供します。また、川崎マリエンについては、ビーチバレーボール選手強化を支援する「ＪＯＣ認定競技別強化センター」として施設を提供します。

■ オリンピアンの派遣によるスポーツ教室の実施

ＪＯＣパートナー都市協定に基づき、大規模スポーツ大会のサブイベント等において、オリンピアンを招いたスポーツ教室や体験会を実施します。

■ 事前キャンプへの対応

ＪＯＣによるコーディネートや助言に基づき、英国をはじめとする事前キャンプの受け入れに的確に対応します。

CHECK!

等々力陸上競技場が舞台！
スポーツを通じたインクルージョンへの挑戦

ソニーコンピュータサイエンス研究所で義足を研究している遠藤謙氏やオリンピアンの為末大氏らが設立したXiborg（サイボーグ）は、陸上競技用の義足を開発し東京2020パラリンピックに出場できる選手を育てるプロジェクトを進めています。本市はパラアスリートを支援する取組として、Xiborgに所属する義足のトップアスリート（春田純選手、佐藤圭太選手、池田樹生選手）の練習場所として、等々力陸上競技場の活用を進めています。

また、国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上2016川崎」では、T44/T47クラスのパラリンピック男子100mのレースなどのパラリンピック種目も行われ、パラアスリート達のパフォーマンスに2万人を超える観客が湧きました。今後も健常者と障害者が同一の大会に出場できる取組を進め、パラリンピック競技等の認知度向上や、スポーツを通じたインクルージョンを促進していきます。

かわさきパラムーブメント

まちづくり

03

東京2020大会の開催期間中には国内外からさまざまな人が本市を訪れます。東京2020大会を契機に、交通環境の向上をはじめ、駅周辺や公共的施設のバリアフリー化、多言語化に配慮した案内表示の充実など、ユニバーサルデザインを推進するとともに、交通ネットワークを戦略的に充実させることにより、住む人・来る人にやさしい未来につながる「まちづくり」のための取組を進めます。

[大会後のレガシー]

ユニバーサル化（バリアフリー化・多言語化）の進んだ公共空間

羽田空港を核とする成長戦略拠点と連動した交通ネットワークの形成

Movement 2016

1 交通環境の向上

誰もが安全、安心、快適に移動できるまちづくりを進めるため、公共交通機関のユニバーサルデザインを推進します。また、東京2020大会に向けたニーズを捉え、公共交通機能を戦略的に強化する取組を進めます。

具体的な取組

■ UDタクシーの普及や利用環境の整備

誰でも利用可能な“みんな”にやさしいUDタクシーの導入補助を行うとともに、UDタクシーに対応した乗り場の整備を進めます。

■ バス車内表示器等による多言語案内

市内観光スポットを結ぶ路線において、多言語による音声案内を行うとともに、全路線について多言語による車内停留所表示を行います。

■ 東京都、大田区等との交通ネットワーク構築

羽田空港と川崎区殿町を結ぶ羽田連絡道路及び国道357号線の整備など道路整備を契機とした羽田空港を中心としたエリアの新たな交通ネットワークの形成に向けて国や関係自治体と協議を進めます。

2017

2 案内表示の充実

統一感のある多言語案内サインの導入やピクトグラムの活用の推進など、公共空間における案内表示の充実化を進めます。

※ピクトグラム：絵文字。絵を使った図表

具体的な取組

■ 公共サインの整備に関するガイドラインによる取組の推進

2015年度に取りまとめた「誰もが分かりやすい公共サイン整備に関するガイドライン」により、多言語に対応した案内サインの充実など本市の魅力や住む人・訪れる人の利便性の向上につながる取組を推進します。

■ 観光施設や防災施設等の案内表示板の多言語表記

市内観光施設等の案内表示板の多言語化を進めるとともに、津波避難施設入口の標識や一時滞在施設、広域避難所への誘導サイン等についても多言語化を進めます。災害発生時に多くの帰宅困難者の発生が予想される川崎駅については、川崎アゼリアの防災機能の強化を目的としたデジタルサイネージを設置し、4か国語による情報発信を行います。

■ 川崎駅北口自由通路の整備に伴う案内サインの統一化

2017年度に供用開始予定の川崎駅北口自由通路の整備に伴い、案内サインを新設するとともに、
駅前広場の既存案内サインを更新し、
案内サインの統一化を図ります。

3 バリアフリー化の推進

駅や道路、観光施設、スポーツ施設等公共的な施設のバリアフリー化に向けた取組を推進します。

具体的な取組

■ 駅・道路などにおけるバリアフリー化の推進

市内19地区におけるバリアフリー基本構想等に基づき、視覚障害者誘導用ブロックの設置や歩道の勾配の改善など鉄道駅及びその周辺地域のバリアフリー化を重点的に進めます。2015年の川崎駅周辺地区に続き、2016年度は溝口駅周辺、2017年度は武蔵小杉駅周辺のバリアフリー基本構想を改定し、バリアフリー化に取り組みます。

■ 公共的施設のバリアフリー化の促進

福祉のまちづくり条例に基づき、不特定多数が利用する公共的施設の新築、増改築等を行う場合に事前協議を義務付け、バリアフリー化を促進します。

■ スポーツ施設のバリアフリー化の推進

2015年度までに実施した市内スポーツセンターの現地調査に基づき、2016年度から3か年で優先度の高い施設や項目についてのバリアフリー化を進めます。2016年度はとどろきアリーナを対象に実施し、以後、順次他の施設について取組を実施します。

CHECK!

川崎の玄関口がより魅力的に！
～川崎駅北口自由通路 2017年度供用開始～

1日平均20万人もの乗車人員を誇るJR川崎駅は市の玄関口とも言える存在。市では川崎駅周辺を広域拠点として機能強化を図る取組を推進しています。2009年の西口北駅前広場の整備、2011年の東口駅前広場の再整備に続き、北口自由通路と新たな改札口の整備に向けた取組を進めています。

●ユニバーサルデザインの推進
川崎駅東口駅前広場と連携し、一体的な利用ができるよう、エレベーター・エスカレーターの整備や、分かりやすいサイン計画など、誰もが利用しやすい施設整備を進めています。

●エコ化
環境技術の展示場である川崎駅東口駅前広場と同様に、LED 照明による省エネルギー化や、ガラス素材を用いた自然採光による昼間の消費電力の縮減、ガラス面への光触媒を塗装し、メンテナンス頻度の低減化等の取組を進めています。

●魅力発信施設も開設
新設される北口自由通路には、魅力発信や行政サービスコーナーなど複合機能を持つ施設を設置します。住む人・訪れる人双方にとって、便利で魅力的な施設となるよう検討を進めています。

東京2020大会に向けてさらに利用者が増えることが予想される川崎駅。生まれ変わった駅が交通や情報発信の拠点となることが期待できます。

かわさきパラムーブメント

都市の魅力向上

04

本市には歴史、文化、産業など多彩な地域資源があり、東京2020大会はそれらの魅力を国内外に発信するチャンスと考えられます。国や他都市等とも連携しながら、市内の集客・回遊性の向上や、外国人観光客など本市を訪れる人へのおもてなしのための取組を進め、国内外に向け本市の魅力を発信します。また、文化芸術活動の面からも「かわさきパラムーブメント」につながる取組を行い、誰もが文化芸術に親しめる環境づくりを進めるとともに、文化芸術の振興により本市のブランド力を高めます。

［大会後のレガシー］

- 多言語に対応した観光施設
- 拠点化、ネットワーク化された観光資源
- 市民・来訪者がＩＣＴを利用しやすい環境
- 国内外に浸透した本市のブランドイメージ
- 誰もが文化芸術に親しめる環境

Movement 2016

1 市内への集客・回遊性の向上

観光案内や本市の魅力発信をさらに充実させるとともに、施設間の連携を推進します。また、国や他都市等との連携による共同セールスや民間事業者との連携による観光ツアー商品の開発など、市内への集客・回遊性の向上に向けた取組を進めます。

具体的な取組

■ 川崎駅北口への魅力発信施設の開設

2017年度に完成する川崎駅北口自由通路に魅力発信施設を開設し、多言語による観光案内や、さまざまな手法による魅力発信の取組を展開します。

■ 市内施設の回遊性の向上

市内博物館・美術館の共通利用券や生田緑地４館（日本民家園・かわさき宙と緑の科学館・岡本太郎美術館、藤子・Ｆ・不二雄ミュージアム）の連携やスタンプラリーの実施等により施設間の回遊性の向上を図ります。

■ 観光ツアー商品の開発に向けたPR

産業観光、生田緑地、各種イベントなど、本市の観光資源のPRやモデルコースの提案を民間事業者に行い、ツアーの開発を促進します。

■ 他都市等と連携した観光振興策の推進

九都県市等他都市との連携により、首都圏の魅力ある周遊ルートの設定や、近隣美術館や博物館との共通割引の実施等に向けた検討を行います。

2 外国人観光客の増加に向けた取組

国・他都市や民間事業者等と連携しながら、国外に向けたセールスを展開するとともに、多言語対応による情報発信やサービスの提供、通信環境の充実に向けた取組を進めます。

具体的な取組

■ 民間事業者と連携したインバウンドに関する取組の推進

本市と協定を締結した(株)ぐるなびや日本観光振興協会のほか、宿泊施設、鉄道事業者、飲食店等と連携し、セミナーや旅行商品の開発等インバウンド(訪日外国人旅行者)誘客のための取組を行います。

■ 国内外旅行博でのセールス展開

市観光協会と共同で国内のトラベルマート等に参加するとともに、国外で開催される旅行博へ参加し、セールスを展開します。

※トラベルマート：旅行会社や運輸・交通機関、観光施設等の事業者が参加する商談会

■ 多言語対応による情報発信や施設案内

ホームページの多言語対応を推進するとともに、市観光協会との連携により、多言語版観光ガイドブックの発行や多言語版観光ホームページを運営します。また、藤子・F・不二雄ミュージアム等各観光施設において、多言語による情報発信や音声ガイドの導入促進を図ります。

■ Wi-Fi 環境の充実

民間事業者との連携などにより、「かわさきWi-Fi」の取組を進め、市内のWi-Fi利用エリアを拡大するとともに、利用者の利便性を考慮して、日本語を含めた英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語など11言語に対応したWi-Fi接続アプリを活用して接続の簡略化を図ります。

かわさき KAWASAKI CITY Wi-Fi

3 文化・芸術の振興

文化芸術活動を通じて、オリンピック・パラリンピックの理解の促進を図るとともに誰もが文化芸術活動に親しめる環境づくりや、文化芸術活動による川崎の魅力発信に取り組みます。

具体的な取組

■ オリンピック・パラリンピックをテーマとした企画の実施

ミューザ川崎シンフォニーホールや岡本太郎美術館などの文化芸術施設において、オリンピックやパラリンピックに関連したテーマで魅力ある企画を実施します。

■ 文化施設やイベント等でのバリアフリープログラムの拡充

アートセンター映像ホールでのバリアフリー上映会や福祉施設等での公演など、障害のある人や高齢者も参加しやすいバリアフリープログラムを拡充します。

■ 多様な主体による文化プログラムの実施

「かわさきジャズ」や「KAWASAKIしんゆり映画祭」など、大学、文化団体、企業など市内の多様な主体と連携した文化プログラムを展開し、川崎の魅力を発信します。

CHECK!

多彩な魅力と多言語サービスで外国人観光客の人気も up ～生田緑地～

豊かな自然とともにさまざまな文化施設を有する生田緑地。中でも2011年にオープンした藤子・F・不二雄ミュージアムは多くのお客様をお迎えし、2015年10月には来館者が200万人を突破、年々海外からの来館者も増加しています。同ミュージアムでは音声ガイド「おはなしデンワ」による多言語での音声案内を実施しています。機器の貸し出し台数は年間約53,000件(2014年度)にも上ります。

また、日本民家園も日本らしさを本格的に味わえる施設として外国人観光客の人気が高まっています。2017年に開園50周年を迎える日本民家園では、現在外国語リーフレットの提供やボランティアによる英語ガイドを実施していますが、多言語音声ガイドの導入など、海外からのお客様の「おもてなし」充実に向けた検討を進めています。

生田緑地の多彩な地域資源が、東京2020大会に向けたインバウンド誘致の呼び水として大きな役割を果たそうとしています。

©Fujiko-Pro

先進的な課題解決モデルの発信

05

本市がこれまでに培ってきたものづくり技術や、集積する高度先端技術を活かして、成長が期待されるライフサイエンス、環境、福祉などの産業分野を発展させることにより、超高齢社会の到来や、エネルギー政策の転換、地球環境問題などのさまざまな課題の解決に向けた取組を行うことで国際社会に貢献するとともに、持続的な経済成長に寄与する取組を進め、こうした取組を「先進的な課題解決モデル」として展開し、国内外に広く発信していきます。

[大会後のレガシー]

- 高度な医療ニーズに対応した革新的な医薬品・医療機器の開発による国際的な課題解決への寄与
- 低炭素化の推進による地球環境問題解決への寄与
- 新たな福祉製品・サービスの創出による国際的な高齢化の課題解決への寄与
- 先端技術に関する世界的なプレゼンス

Movement 2016 ▶ 2017

1 先端技術の世界に向けた発信

世界が直面している課題の解決に貢献するため、本市では、ライフイノベーション、グリーンイノベーション、ウェルフェアイノベーションの３つのイノベーションの推進により、先端技術の世界に向けたプレゼンス（存在感）を示すことができるまちとして、さまざまな取組を進めます。

具体的な取組

■ 殿町国際戦略拠点（キング スカイフロント）の形成

アルツハイマー病、難治がん、脊椎損傷の治療法、最先端医療ロボットなどの革新的な医薬品・医療機器の開発や製造により、世界が直面している、超高齢社会等の課題解決に貢献するとともに、新産業を創出する拠点形成に取り組み、ライフイノベーションを推進します。

■ 水素関連技術の普及促進

水素社会の実現をめざし、再生可能エネルギーと水素を用いた自立型エネルギー供給システム共同実証事業や、使用済プラスチックから製造した水素をパイプラインで輸送し、純水素型燃料電池で利用する技術実証などさまざまなリーディングプロジェクトを実施するとともに、国や関係自治体・企業等多様な主体との連携により新たな水素プロジェクトを創出し、推進します。

■ 環境先進都市としての特徴と強みを活かした国際社会への貢献

川崎がこれまで培ってきた優れた環境技術や公害を克服する過程で得られた経験を活かして、新たな環境技術を作り出すとともに、こうした技術を海外に技術移転することによる国際社会への貢献をめざすグリーンイノベーションの取組を推進します。

■ 環境配慮型社会の実現に向けた情報発信

地球温暖化や再生可能エネルギー、ごみなどの資源循環について、楽しく学ぶことができるかわさきエコ暮らし未来館や近接するメガソーラー発電所などにより、環境配慮型社会の実現に向けた情報発信の取組を進めます。

■ 福祉製品、サービスの開発企業との連携

ウェルフェアイノベーションフォーラムの取組などにより、市内中小企業の優れた技術力などを応用した利用者のニーズに応えた福祉製品の創出や福祉産業の拡大、活性化のための取組を進めます。

■ ICTを活用した快適で利便性の高いまちづくりの推進

民間事業者と連携したWi-Fi利用エリアの拡大による市内インターネット利用環境の向上、必要な情報を必要なタイミングで提供するスマートフォンアプリケーション「かわさきアプリ」を活用した効果的な情報発信、デジタルサイネージの導入などにより、快適で利便性の高いまちづくりに向けた取組を進めます。

■ スマートシティの推進

川崎駅周辺地区スマートコミュニティ事業における「川崎スマートEVバス」の導入をはじめ、地域全体のエネルギーマネジメント実証事業など、エネルギーの最適利用とＩＣＴ・データの利活用によるスマートシティの実現に向けた取組を進めます。

再生可能エネルギーと水素を用いた世界初の
自立型エネルギー供給システム「H_2One」

推進フォーラムについて

市民のアイデアとチカラでムーブメントを創りだす

かわさきパラムーブメント推進フォーラム

2020年、多くの人が同じ舞台を見つめるこの機会に、ほんの少し先のわたしたちのまちの未来像も共有しながら、それぞれの立場から「かわさきパラムーブメント」を実践、自分ゴト化する。このフォーラムは市民、団体、企業等さまざまな主体がつながり、行動を起こすことで、川崎の未来につながる「ムーブメント」を創りだすための連携・協働の場として2015年10月に設置しました。

**意識を変えるというよりも
何か具体的にことを起こして
そこから意識が変わるという順序だろう。**

**障害の有無や環境に左右されない
あらゆる人々が身体運動を日常化できる
そんな都市を目指したい。**

**点でやっているそれぞれの活動が
パラムーブメントというコンセプトで
線になり、面になっていく。
そんな展開を図りたい。**

民間とうまく連携することで
パラムーブメントは長期的なムーブメントとなる。
サスティナビリティー(持続可能性)
を根幹に据えた発想が重要。

1964年の東京オリンピックで
日本の選手団が入場した時に思わず涙があふれた。
2020年の子どもたちにもそんな感動を与えたい。

かっこよくて、ワクワクするものに心が動く。
スポーツやエンターテイメント
川崎が持つ魅力的なリソースを活用することが
心を変えるきっかけになる。

オリンピック・パラリンピック
そして2016年から施行される
障害者差別解消法
これは世界が変わるチャンスなんだ
そんな風に思っている。

フォーラム委員一覧

氏名	役職等	分野
共同委員長		
福田　紀彦	川崎市長	
成田　真由美	パラリンピアン 川崎市市民文化大使	
顧問		
中森　邦男	日本パラリンピック委員会事務局長	
日比野　哲郎	日本オリンピック委員会事務局長	
委員		
天野　春果	川崎フロンターレプロモーション部長	スポーツ・健康
遠藤　謙	株式会社サイボーグ代表取締役社長	スポーツ・健康
大塚　訓平	株式会社オーリアル代表取締役	まちづくり
小倉　敬子	公益財団法人かわさき市民活動センター理事長	地域活動・ボランティア
菊地　正	特定非営利活動法人高津総合型スポーツクラブSELF副理事長	地域活動・ボランティア
北西　誠	公益財団法人川崎市スポーツ協会事務局長	スポーツ・健康
島　桜子	一般社団法人チャレンジド・クリエイティブラボ代表理事	ダイバーシティ
杉山　尚美	株式会社ぐるなび執行役員	おもてなし
須藤　シンジ	特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所代表理事	ダイバーシティ
瀬戸山　正二	有限会社オフィスプライヤ代表取締役	スポーツ・健康
土岐　一利	株式会社チッタエンタテイメント取締役	エンタテイメント
中澤　信	株式会社バリアフリーカンパニー代表取締役社長	ダイバーシティ
中村　建治	株式会社フィード代表取締役社長	まちづくり
北條　秀衛	公益財団法人川崎市文化財団顧問	文化
山田　長満	川崎商工会議所会頭　川崎市国際交流協会会長	社会・経済
横島　正志	公益財団法人川崎市身体障害者協会事務局長	スポーツ・健康
ロー　紀子	特定非営利活動法人ママプラグ代表	福祉

リーディングプロジェクト

ただいま計画中！

フォーラム発リーディングプロジェクト

①アクセシブルシティかわさき

■車いすユーザー等障害者の視点から、外食や宿泊、観光等に関する情報を取材し、WEBや紙媒体等で情報発信

■店舗や施設の情報のほか、観光スポットについては障害者にとって最適なアクセスルートの調査も実施

■2016年4月に施行された障害者差別解消法への対応に関する事業者向けセミナーを開催

車いすを使用していると、限られた情報の中から自分が「行きたいお店」ではなく、「行けるお店」を選ばざるを得ないのが現状です。
今日はこんなお店で食事したいなと思った時に、気軽にそこへ出かけることができる、そんなあたりまえのことが誰の手にも届くまちづくりを進められるといいですね。

都市の魅力向上　まちづくり

大塚委員

杉山委員

山田委員

②パラスポーツやってみるキャラバン

■市内の学校においてパラスポーツを知り、体験する講座を実施

■「かわさきパラムーブメント」のモデルとなる全市イベントとしての発展も検討

パラスポーツはまだ知名度が低く、その魅力に触れられる機会は多くありません。
子どもに身近な場所である「学校」でパラスポーツが体験できれば、
子どもから親へそして地域へと理解の輪がつながっていくと思います。
このプロジェクトがムーブメント化し、
2020年東京パラリンピックの会場が満員になることを願っています。

スポーツ振興 健康づくり　ひとづくり

島委員

瀬戸山委員

横島委員

③誰でも参加！インクルーシブなカワサキハロウィン

■大人も子どもも、障害がある人無い人、すべての人が楽しめるハロウィンイベントの実施

カワサキハロウィンは国内最大級のハロウィンパレードとして知られています。
障害者は身体的に健常者と異なる部位があるので、仮装ではそんな身体の特徴を活かせるのでは。
例えばフック船長の仮装とか、カッコいいですよね。楽しいイベントの中で健常者と
障害者が混ざり合えば、心のバリアも自然に取り除かれていくと思います。

遠藤委員

土岐委員

都市の魅力向上

かわさきパラムーブメント
推進フォーラムでは
「かわさきパラムーブメント」の
実践につながるプロジェクトの
検討を進めています。
2016年度から実施する
主なプロジェクトについて、
そのコンセプトや取組予定を
ご紹介します。

④宿泊施設のバリアフリー化促進プロジェクト

■市内宿泊施設のバリアフリー化に関する現状調査や当事者のニーズ把握

■補助制度など、事業者によるバリアフリー化を促進するためのしくみづくりの検討

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、
宿泊施設のバリアフリー化は全国的な課題。
川崎市も例外ではありません。
「かわさきパラムーブメント」を東京大会までの一過性のものではなく、
その後も継続可能な形で展開させていくには、
民間事業者との協力体制を築くことが大切だと思います。
ビジネスモデルとしても成立する形で、プロジェクトを推進できると良いですね。

中澤委員

まちづくり

まだまだほかにも！推進フォーラムから提案されたアイデアの例

障害がある人も利用できる施設やサービスの、
全市統一マークをつくってはどうか（菊地委員）

ハラール食やベジタリアンへの対応など、
マイノリティに配慮した取組も大切　（小倉委員）

オリンピック・パラリンピック期間中の災害時対策
として、外国人を含めた要援護者支援活動を行える
市民の養成や防災訓練を実施できないか（口一委員）

空家の活用等による障害者・高齢者の方々にとって
利便性の高い居住サービスを提供してはどうか
（中村委員）

障害のある人などに、ワクワク・ドキドキするような
コンテンツでお仕事を体験していただく
「就労体験イベント」について、2020年に向けて
さらに発展させたい（須藤委員）

バリアフリーの文化芸術活動や障害者の
パフォーミングアーツ活動のプラットフォームを
設立してはどうか　（北條委員）

ものづくり、IT産業などを結びつけて、
川崎を義足などのパラグッズや新たなパーソナル
モビリティーの開発拠点にしてはどうか　（中澤委員）

※実施方法や時期、実施主体等については今後検討を進めます。

拡がる ムーブメント

点から線へ、そして市内全域へ 拡がるパラムーブメント

川崎らしさや地域それぞれが持つ特徴や資源を活かし
幅広い領域で市内全域にパラムーブメントを拡散します。

文化

■多彩な文化芸術イベントや
映像による川崎の魅力発信

■バリアフリープログラムの実施

観光

■藤子・F・不二雄ミュージアム、
日本民家園など魅力的な
観光資源による観光客の誘致

■観光施設における
多言語サービスの実践

■オリンピック・パラリンピック
の機会を捉えた
ユニークな企画の実施

スポーツ

■等々力陸上競技場、とどろきアリーナなど
を会場に大規模スポーツイベントを開催

■パラアスリートへの練習会場の提供

■スポーツイベントにおける
就労体験事業の実施

■英国オリンピック代表チーム
事前キャンプの受け入れ

産業

■最先端技術の世界に向けた発信

■新たな課題解決モデルとなるイノベーションの推進

まちづくり

■川崎駅北口自由通路の完成（2017年度）を契機に、魅力発信施設を開設するなど本市の魅力発信が充実

■川崎の玄関口にふさわしい、多言語案内板の充実やユニバーサルデザインのまちづくりを推進

Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。

川崎市

かわさきパラムーブメント 推進ビジョン
第1期（2016～2017）平成28（2016）年7月

川崎市市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室／〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町11-2 川崎フロンティアビル9階
電話 044-200-0564／FAX 044-200-3599／Eメール 20lypara@city.kawasaki.jp